てきている。いわゆるドキュメンタリーな教養番組でさえ，無秩序，無計画にテーマが選ばれ，その教育的価値どころか，混乱や困惑をひき起こしている。このマスコミという支配的機能も，現在の不安定な精神を招来する一つの要素である。

教育面での挑戦

すべての予算の中で教育予算はかなりの割合を占めている。しかし，教育のすべての分野の中で，最重点にされているのは科学教育，技術教育であり，個人の生活の質を向上させるための教育は，第二義以下に取り扱われている。

たとえば，クラウザー報告によると，教育は社会投資であると規定し，生産増強のために技術教育を強調している。そして，これを具体化するため，莫大な公費が，科学，技術経済などの分野における教育訓練のために配分され，また，工業技術の専門家養成の教育も現在では非常に年少のときから始まり，他の課程にくらべ，もっとも優先されている。

それに対して一般教養課目は軽視されているが，しかし，今日ほどリベラルな教育が必要なときはないのである。

我々は，科学者，技術者，発明家の頭から生まれた新しい道具を運用することだけに追われ，これがどんな結末になるのか，我々の生活にどんな衝撃を与えるのかなどについて考える時間がない。クラーク卿が述べているように，工業社会においては，伝統的ヒューマニズムと産業，政治が一体化しなければならないし，また言語学者，文学者などが，科学技術の教育者と協力して今日的課題に真剣にとりくんで，国家的な大討論の場を永続的にもつことが必要であろう。そうすれば，この〝豊かな社会〟における犯罪問題の解決の糸口がつかめるに違いない。

John Huddleston, "Crime in an Advanced Industrial Society", *Social Service Quarterly*, Autumn, 1967, pp.75-79.

（根本　嘉明　全社協）

ヨーロッパのホーム・メーカー

今日，カナダで働いている日勤の Homemaker は600人，すなわち約3万人に1人の割である。もちろん地域的にサービスのないところもたくさんある。40年以上 Homemaker service が行なわれているトロントでは1万人に1人の Homemaker がいる。

イタリア以外のすべてのヨーロッパ諸国では，カナダと対照的に，おどろくほど多数の Homemaker が仕事をしている。スウェーデンは500人に1人の Homemaker がいて，もっとも幅広いサービスを行なっている。スウェーデンには994の地方自治体があり，そのすべてに1つずつ Homemaker の組織がある。これはオタワほどの大きさの都市には500人の日勤ワーカーがいることを意味する。他のスカンジナヴィア諸国もスウェーデンに近い状態で，フィンランドの計画はもっとも新しいものであり，農業人口が多く難しいにも

かかわらず，そのサービスは驚くほどすすんでいて，現在，人口 2500 人当たり 1 人の Homemaker がいる。デンマーク，ノールウェー，オランダでは，少なくとも 1000 人に 1 人の割である。

他のヨーロッパ諸国では，スカンジナヴィア諸国ほどよくはないが英国では 2000 人に 1 人の Homemaker がいる。フランスは全国的にならして 10000 人に 1 人ともっとも貧弱だが，広大な農業中心地におけるサービスは非常に広範である。

その数も印象的であるが，その訓練形態はもっと印象的である。Homemaking はヨーロッパのほとんどの国で生きがいのあるサービスであるとされている。Homemaker Training school に入る資格を得るためには，中学校の家庭経済のコースをとっていなければならない。Homemaking は資格においても，訓練においても，幼稚園教育や保育に匹敵する半ば専門職である。英国とイタリア以外の国では，若い女性は独立した常設の Homemaker school に入って訓練を受ける。

多くの国で中等学校から十分な新入生を得ることが難しく，農業地区からのものが高率を占めている。たいていの国で，今は入学制度が自由なので，一家の主婦や母親で35歳以上の人たちが，学歴がなくても訓練を受けられる。男子も徐々に増えているが，かなり高年齢の男子を働かせるためで，ある国では男は農業地区で使われる。興味深いことに農業地域で働くための Homemaker の訓練を特に分化している国もある。

ほとんどのヨーロッパ諸国の計画では，ソーシャルワーカーは，管理的な立場で雇用される。上級の地位の多くは，普通高度な資格のあるソーシャルワーカーの男子がつく。

ヨーロッパの Homemaker サービスの管理と財源には，国によって相当なちがいがある。英国とスカンジナヴィア諸国の 5 カ国では，Homemaker サービスは国の監督のもとに，地方政府によって管理されている。英国とデンマークでは，規定では利用者が料金を払うことになっているが，政府も資金を出している。ヨーロッパ大陸の 8 カ国で Homemaker サービスは，ベルギー以外は私的な

海外文献紹介

福祉機関によって管理運営されている。ベルギーでは公的なものと私的なものの両方の組織がある。私的機関がサービスを行なっているこれら 8 カ国のすべては政府の補助金がある。

世界でもっとも発展した Homemaker サービスはスウェーデンのもので，4 つの異なった部門に発展している。最大の部門は有給の Homemaker 部門で，15カ月の訓練コースを終えて，子供のいる家庭で働き，母親がいないか，いてもその役割を果たせない場合に，必要とあらば子供に対して全責任をとる。次に訓練を受けた資格を基に選ばれた人たちのグループで，彼らはより困難で複雑な家庭状況，たとえば母親が精神病院退院後の家庭の中で仕事ができるような高度の訓練を与えられている。第 3 のグループは "Samaritans" として知られていて，16000人以上いる。彼らは高齢者のために働くよう訓練された人たちである。スウェーデンの福祉対

策は自分自身の家庭にいることができる人を，施設に入れるべきではないという立場から考えられており，多くの地域で Home-maker のほかに，各種の在宅対象者のためのサービスがある。すなわち "Meals on Wheels" (75地域), Medicare Service)200以上の地域）とか作業療法や学習グループなどである。第4の部門は "baby sitter" という種類で，3カ月の訓練後時間単位で雇われ，両親が働いている病気の子供の世話をする。"baby sitter" のうちの何人かは，週に1日障害児の母の手助けをするため派遣されている。障害児というのは，脳性マヒやサリドマイド児や知恵遅れの子やその他である。

スウェーデンのこの事業の責任者である Miss Margaretha Nordstrom は「どんな収入層の人でも，すべて必要なときに Home-maker の援助を求めるのは家が火事になったときに消防署を呼ぶのと同様にあたりまえのことである」といっている。

Kothryu E. Taggart, "The European Home-maker," *Canadian Welfare*, Sept.-Oct., 1967, pp. 34—38.　（三本杉国興　全社協）

ベルギーにおける社会保障と所得再分配

社会保障の所得再分配効果に関して，ヨーロッパ諸国では最近とくに関心がたかまっている。ILOが1965年に行なったヨーロッパ4カ国の調査は，その代表的なものであるが，そのほかにも公刊，未公刊のものがいくつか知られている。再分配効果がこのように脚光をあびてきたのには，経済的，社会的にいくつかの理由をかぞえたてることができるであろうが，おそらくもっとも重要な理由は，西ヨーロッパの社会保障水準の上昇に伴う，その質的反省ではないかと思われる。水準こそ高まったが，社会保障機能がこれにふさわしい内的充実をみせていないという事実，高価な社会保障制度を効果的に運営し，一国の経済政策目標と調和させ推進させるにはどうしたらよいか，再分配効果の再評価をうながした事情は，この辺にあるのではないかと思う。

本編もこのような分析視角を背景に，戦後15年（1948-1962）のベルギー社会保障制度，とくに被用者を対象とする社会保障制度が果たした再分配効果を評定し，若干の政策提言を行なっている。

1.　三つの所得再分配

社会保障の所得再分配という場合，2つの分析レベルを明確に区別しておかなければならない。その一つはマクロ的所得再分配であり，他はミクロ的所得再分配である。前者は国民所得勘定における勤労所得と財産所得の間の再分配であり，その効果は国民所得に占める勤労所得の比率によって示される。ミクロ的所得再分配はさらに，水平的再分配と垂直的再分配に分けられるが，つまりは個人所得階層間の再分配であり，社会保障の所得再分配効果としてふつう取り上げられているのはこの方である。ミクロ的再分配とマクロ的再分配の間には，おそらく重要な論理的関連がかくされているには違いないが，いまのところ，この解明には十分手がつけられていな